



いたびつ 板櫃 <校訓> 真理の探究 自主躍進

令和6年7月17日(水)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市小倉北区白萩町8番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>  
自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～  
<目指す生徒像>  
①「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)  
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)  
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)  
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

## 平和授業(平和学習)を実施しました!

7月9日(火)1時間目に「平和学習・平和授業」を行いました。みなさんは、平成に生まれ平成に育ち、そして令和という時代を生きています。平成という時代は、日本が一度も戦争という過ちを起こさなかった時代です。ですから、多くの人たちが戦争を知りません。

「温故知新」ということばがあります。「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る」という意味です。先生を含め、戦争を知らないみなさんは、今日の授業を通して過去のことを学び、その学びをこれからの未来につなげていかなければなりません。1時間という短い時間ですが、しっかり話を聞き、考え、次につなげることができたと思います。

平和学習は、ただ単に戦争についての知識や理解を深めることだけではありません。平和な世界を築くためには、まず、身近なところ(学校や地域)から争いごとをなくし、相手の違いを認め合い、相手を思いやる必要があります。そのことが平和な社会(世界)の根柢のあることに気付いてほしいと思います。また、戦争について「知る」ことにより、自分の生き方を振り返り、未来への生き方を見つめ直すきっかけになればと思います。

校長先生のお母さんは戦争当時広島に疎開していました。疎開先は、広島市からかなり山に入った場所でした。広島市に原爆が投下された朝、疎開先の村から「きのこ雲」が見えたそうです。そして、次の日から多くのけが人や死んだ人々が運ばれてきて、小学生だった先生のお母さんは、ケガをした人たちの世話をしたそうです。当時のことをはっきり覚えていて、よく話してくれました。

北九州市では、平和な世界の実現のために、市が市民の皆様とともに、前進していく決意を示すとともに、平和に対する理念を示す「北九州市非核平和都市宣言」を平成22年に実施しました。この非核平和都市宣言を契機に、これまで様々な平和に向けた取組を進めてきました。しかし、戦後80年近くが経過し、戦時下の暮らしや市民の苦労など、当時の様子を知っている方々が少なく、悲惨な戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。

そのため、戦争の記憶を次世代に伝えるとともに、改めて、市民の皆さんと命と平和の大切さを考えるきっかけに繋がる取組を進めていきます。  
【北九州市 HP より抜粋】



## ～～～1945年 八幡大空襲について～～～

1945年8月8日午前10時ごろから、米軍爆撃機B29が現在の八幡東区を中心に行った攻撃は「八幡大空襲」と呼ばれています。目標は八幡製鉄所の従業員と家族が多く暮らす住宅街だったとされ、現在の同区枝光や中央、尾倉、前田を中心に焼け野原となりました。旧八幡市発行の「八幡市史 続編」や「北九州市史」によると、死傷者は約2500人、被災人口は5万2562人、被災戸数は約1万4千戸。「日本都市戦災地図」(第一復員省編集)によると、死者数は1785人。

旧八幡市では44年6月、同8月にも大規模な空襲を受け、45年分を含めて3回で計2780人が死傷しました(「八幡市史 続編」)。「戦災地図」によると、現在の北九州市域では計13回の空襲があり、死者2452人、負傷者1583人に上ったそうです。

八幡駅から少し上がったロータリー付近一帯は、丘陵地(約30メートル)で小伊藤山と呼ばれ、その麓まで家屋が建ち並んでいました。太平洋戦争となり北から南から、また西から、防空壕が築造されました。米空軍による焼夷弾攻撃で、附近一帯は焼野原となり、この防空壕に避難した人々は、火煙に包まれ全員窒息死しました。その数300人とされています。戦災復興区画整理事業により、この地を公園とし、戦災死者を追悼するため、昭和27年慰霊塔を建立しました。



夏休みは時間があるときに「北九州市平和のまちミュージアム」を訪問してみませんか。先生も昨年館長さんと話をすることができ、多くのことを学ぶことができました。(小学校でいった人もいられるかもしれません)